

岩 間 陽 子 教 授

専門分野：国際政治、欧州安全保障

学 位：博士（法学）（京都大学）

略 歴：1986年京都大学法学部卒、88年同大学院修士課程修了、94年同大学院博士後期課程、助手等を経て、98-2000年在ドイツ日本国大使館専門調査員、2000年本学助教授、2007年本学准教授、2009年本学教授。

1. 業 績 (A)

(1) 雑誌論文（単著）

- * 岩間陽子「西ドイツと戦術核兵器」『国際安全保障』第40巻第4号（2013年3月）36-53頁。（※）
- * 岩間陽子「（提言・平和構築）日本の平和協力、今後の課題」『外交』Vol.15（2012年9月）89-93頁。

(2) 図 書（編・共著等）

- * 岩間陽子「冷戦後の NATO と統一ドイツ」広瀬佳一・吉崎知典（編著）『冷戦後の NATO — “ハイブリッド同盟 “への挑戦』（ミネルヴァ書房、2012年）第5章所収、96-114頁。
- * 岩間陽子「米国多国間同盟の中の NATO」久保文明（編）日本国際問題研究所（監修）『アメリカにとっての同盟とは何か——超大国に同盟は必要か』（中央公論新社、2013年）第5章所収、95-120頁。

(3) その他

- * 岩間陽子「ドイツにおける政権交代と外交の変化」平成24年度外務省国際問題調査研究・提言事業（研究テーマ：政権交代に際しての外交の持続性）『（研究報告書・提言）政権交代に際しての外交の持続性：政権交代と外交の安定性』（世界平和研究所、2013年3月）第5章所収、51-60頁。

2. 業 績 (B)

書評・解説等

- * 書評：青野利彦（著）『「危機の年」の冷戦と同盟—ベルリン、キューバ、デタント 1963～63年』（有斐閣、2012年11月）『書斎の窓』No.263（2013年4月号）56-60頁。

3. 助成金等による研究

- * 公益財団法人世界平和研究所にて、平成24年度外務省国際問題調査研究・提言事業費補助金をうけ、「政権交代に際しての外交の持続性」研究会に委員として参加、ドイツの事例に関して研究、報告した。

4. 教 育

(1) 講 義

- * International Relations（秋学期）

(2) 論文指導

- * 博士課程 6 名（安全保障・国際問題プログラム、主指導 4 名、副指導 2 名）学位取得 1 名。
- * 修士課程 1 名（Young Leaders Program）

5. 管理・運営への関与

委員会

- * 安全保障・国際問題プログラム・コミティー
- * Young Leaders Program プログラム・コミティー

6. 社会的貢献（A）

（1）財団法人等における活動

役員，委員会

- * 財団法人日本国際問題研究所会員
- * 財団法人平和・安全保障研究所会員・研究委員

（2）学会等における活動

- * 国際安全保障学会監事
- * 日本国際政治学会会員
- * 日本政治学会会員
- * 日本 EU 学会会員

（3）審議会等における活動

- * 法制審議会委員
- * 防衛庁省衛政策懇談会委員 防衛庁において日本の防衛政策に関する説明を受け、それに対する意見を述べた。
- * 防衛省防衛施設中央審議会委員

（4）その他

- * 防衛省上級研修講師（2012 年 10 月 4 日、11 月 8 日）

7. 社会的貢献（B）

（1）ジャーナリズムでの発言

活字メディア

- * 「発言「アフガン支援の転換点に」」『毎日新聞』朝刊、2012 年 7 月 1 日（日）
- * 「キッシンジャー回顧録に見る対中 戦略：アジアの硬直招く、無条件の敵視と融和」『毎日新聞』夕刊 文化面、2012 年 7 月 24 日（月）
- * 「2012 衆院選 争点を問う②「右傾化：2 大政党制の定着を」」『毎日新聞』夕刊 文化面、2012 年 12 月 10 日（月）
- * （連続識者評論「新政権の課題」）「国家の軸示してほしい——尖閣は冷戦初期のベルリン」47 行政ジャーナル、2012 年 12 月 23 日配信
- * 「第 28 回正論大賞 西原正氏と新春正論対談「中国包囲に動く米・アジア」」『産経新聞』朝刊、2013 年 1 月 3 日（木）
- * 「論点「安保の再々定義を急げ」」『毎日新聞』朝刊、2013 年 2 月 24 日（日）

（2）講演会，座談会，会議出席

- * シンポジウム「各国の政権交代と外交方針の変化」（公益財団法人世界平和研究所主催）2013 年 3 月 21 日、国際大学（新潟県美並魚沼市）にて、ドイツの政権交代

と外交の持続性について発表。